

手をつなぐ

題字 藤本利夫書

〈1988年7月9日創刊〉
 発行2017年7月1日 〈毎月1日発行〉
滋賀県民主教育研究所
 〒520-0052 大津市朝日が丘1丁目
 11-3 教育文化会館2F
 TEL & FAX 077-525-5364
 教育110番 077-523-3715
 eメール shiga.minken@gmail.com
 HP: http://shiga-minken.jimdo.com/
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)
 ① ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576
 ② 滋賀銀行本店営業部/普通口座511256
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

「競争的資金」と大学政策のゆくえ

「手をつなぐ」この大切さ
龍谷大学社会学部 白石正久

るようだ。

私立大学の学費が常軌を逸した高額になってきているのは、日本政府が「高等教育無償化」という国際的な共通目標に背を向け、年々、経常費への補助金を抑制する政策を採り続けている結果である。民主党政権時によくやく「国際人権A規約第13条2項b・c」の「留保」を撤回し姿勢を正したかに見えたが、直近の経常費への補助金比率は、ついに10%を割り込むまでになった。余談であるが安倍政権は、憲法第9条の「改正」と抱き合わせで、「高等教育無償」を「憲法化」すると言いつつ、憲法第89条の公の財産を宗教団体、公の支配に属しない慈善、教育、博愛の事業に供さないという条文によって私学助成を「違憲」とする根拠のない見解に依拠して、無償化のためには憲法「改正」が不可避と断言している。言うまでもないが、私立学校も教育基本法、学校教育法によって「公の支配」の下にある。高額費は正が、国民の最大要求になりかねないという自らの失政への自覚はあ

る。このような状況下で公私を問わず大学に降ってきたのが、「競争的資金」の獲得のための申請書類の作成である。地域貢献、教学改革、国際化、研究高度化など、さまざまな名目の「競争的資金」がつくられ、大学の名声を高めるためにも「審査」を勝ち抜かなければならない。この環境にまぎれるように誘いの手を伸ばしてきたのが、大学等の研究を軍産産業に連結させる防衛省「安全保障技術研究推進制度」である。

大学の経営努力は、この「競争的資金」の獲得に傾注されることになり。ふと気づくと、大学が教育と研究の場である事実を見失ってしまいうような現実もあるのではないか。私学も公教育の基盤を形成しているのであり、その運営費は普遍性の高い公費によってまかなわれるべきものである。それゆえに「公費助成」を求める運動は、学校経営者と教職員組合の共同というめざらしい形態を含めて、多くの大学の参加によって長年続けられてきた。ところが近年、

この運動が頭打ちになっている。その背景に、「競争的資金」の獲得に駆り立てられ、「自分の大学のこと」で精一杯」という意識状況が広がってはいないか。

「自助努力」「競争」を唱える政策は、大学に限らずさまざまな領域において分断と孤立化を招きつつある。そうなることは思う壺にはまることである。「安全保障研究推進」には、学会協議の声明、いくつかの大学での研究倫理規程の新たな制定などとなって結実した研究者の連帯が力強く抗している。口幅つたい言いが方になるが、国民各層の良心は決して眠ってはいないことに信頼をもち、根本的な矛盾に立ち向かうための連帯を結び合うべきときにある。こんなときこそ、胸を張って進んで行きたいと思うこの頃である。

(しらいし まさひさ)

《 今月の紙面 》

- ・ 「競争的資金」と大学政策のゆくえ/白石正久……………P1
- ・ 【総会記念企画】シンポジウム「子どもの貧困と学習支援の取り組み」……………P2~4
- ・ 第30回総会概要……………P5
- ・ どうなる？道徳教科化の内容と問題点/倉本 頼一……………P6-7
- ・ 2017年度活動予定&役員……………P8